

業展望

総合リサイクル企業のサイクルーズ（本社―東京都大田区、福田隆社長）は、中核企業である東港金属を中心に、金属スクラップや産業廃棄物のリサイクルを展開する。近年はリサイクル業界へのIT技術導入や中古品ビジネスにも注力し、サーキュラーエコノミーの実現にまい進している。2023年の取り組みや今後の事業展望などを福田社長に聞いた。

びたほか、昨年買収した2社の売上利益などが増収の背景にある。減益要因は中核会社の東海金属での取扱数量の減少が響いた」

——事業拡大が進む中、現在の各事業会社

ける。集荷・販売とも営業活動を強化し、昨年12月には初の単月黒字を達成した。さらに産廃・建廃の電子契約サービス『エコドラフトwithクラウドサイン』は業界内でシ

ビジネスの。イン。iF。Nなど。トワーク。ITエン。も行う。を推進

金頭めつき・伸線
カーのFCM(本社
大阪市東成区、川森
晋治社長)はこのほど、
銀と炭素を組み合わせた
高機能めつきを開発
した。めつき液にグラ
フエン(炭素原子のシ
ート状物質)を添加す
ることで、導電性及耐
摩耗性が40%以上ア
ップ。今後は既存めつ
きの代替や端子・コネ



ラフェン

の新素材で、導電性の高さが注目されている。同社はグラフェンを作製して水溶液中に分散させる独自技術を有しており、3年前から名古屋工業大学の呉松竹教授の研究グループと共同研究を行い、めっき用のグラフェン分散液の開発にこのほど成功した。

合でクラフエンを添加した銀―クラフエン複合めっきでは、導電性を示す接触抵抗が42%改善できることが証明された。また、耐摩耗性は46%改善され、硬度も23%引き上がることを確認した。従来のめっきと比べ約10分の1まで薄膜化しても機能性を維持できるため、省資源による低コ

ビロリドンの有機溶媒にも対応。新たな漆加先として、今後さまざまなめっき種への適用の可能性も探っていく。同社ではグラフエン分散液と、水溶液から乾燥させたグラフエンパウダーの販売を行う。

金展(メタルジャパ
ン)に出展する予定。
同社は錫、ニッケル、
金、銀などの各種金属
合金の電気めっきを製
造し、めっき技術をベ
ースにしたフィルム加
工も行っている。20
23年3月からは自動
車用精密部品メーカ
の松尾製作所(本社
愛知県大府市)の完全
子会社となっている。

FCM、グラフエン添加

高導電銀めつき開発

ン80^{ドル}／ポンド8^先前後で推移していたが、1月下旬にかけて20^{ドル}／2^先前後まで急落した。スポットでの原料調達比率が高い中国の銅製鍊メーカは採算悪化を免れず、今後減産する可能性はかなり高い（国内製鍊関係者）との見方が寄せられる。

2024年の長期契約。日本の銅製鍊メーカはほぼ長契ベースで原料調達しているため、スポット買鍊条件の悪化による影響はほとんどない（同）とみられる。

一方で中国の製鍊メーカは、多くが四半期ごとなどスポットベースで精鍊の調達契約を結ぶ。電力費や労務費、輸送費など各種コストが上昇する中、目下のスポット買鍊条件

目下、鉄鋼の需要は、自動車用が中心で、カラーが共同買鉱のため増産している。これに製鍊企業連合（CSPT）を組むが、都内の非鉄原料商社幹部は「中国製鍊関係者によると、CSPTは協調減産する方針を打ち出しているようだ」と話

1月の電気鋳造用鋼材の増産は、前年同期比13%増の1181万トンを大幅に増加。近年は製鍊能力の拡大に対して原料が不足していたが、大型銅鋁鉱山が相次ぎ立ち上がったことで十分な精鉱量を調達できるよう

ストや環境負荷低減などが図れる。なお、めつき複合化による発色の変化も認められなかった。

クラフエン分散液の溶媒は水のほか、MEK（メチルエチルケトン）、NMP（Nメチル

に高い製品。早期に量産を立ち上げる見通しも立っている」と主力製品としての成長に期待を込めており、幅広いニーズ掘り起こしを旨とする方針。同製品は5月にインテックス大阪で開催される高機能

1月の電気鋼生産量は前年同月比13%増の1181万トと大幅に増加。近年は製鉄能力の拡大に対して原料が不足していたが、大型銅鉱山が相次ぎ立ち上がり、銅鉱山が相次ぎ立ち上がったことで十分な精鉱量を調達できるよう